

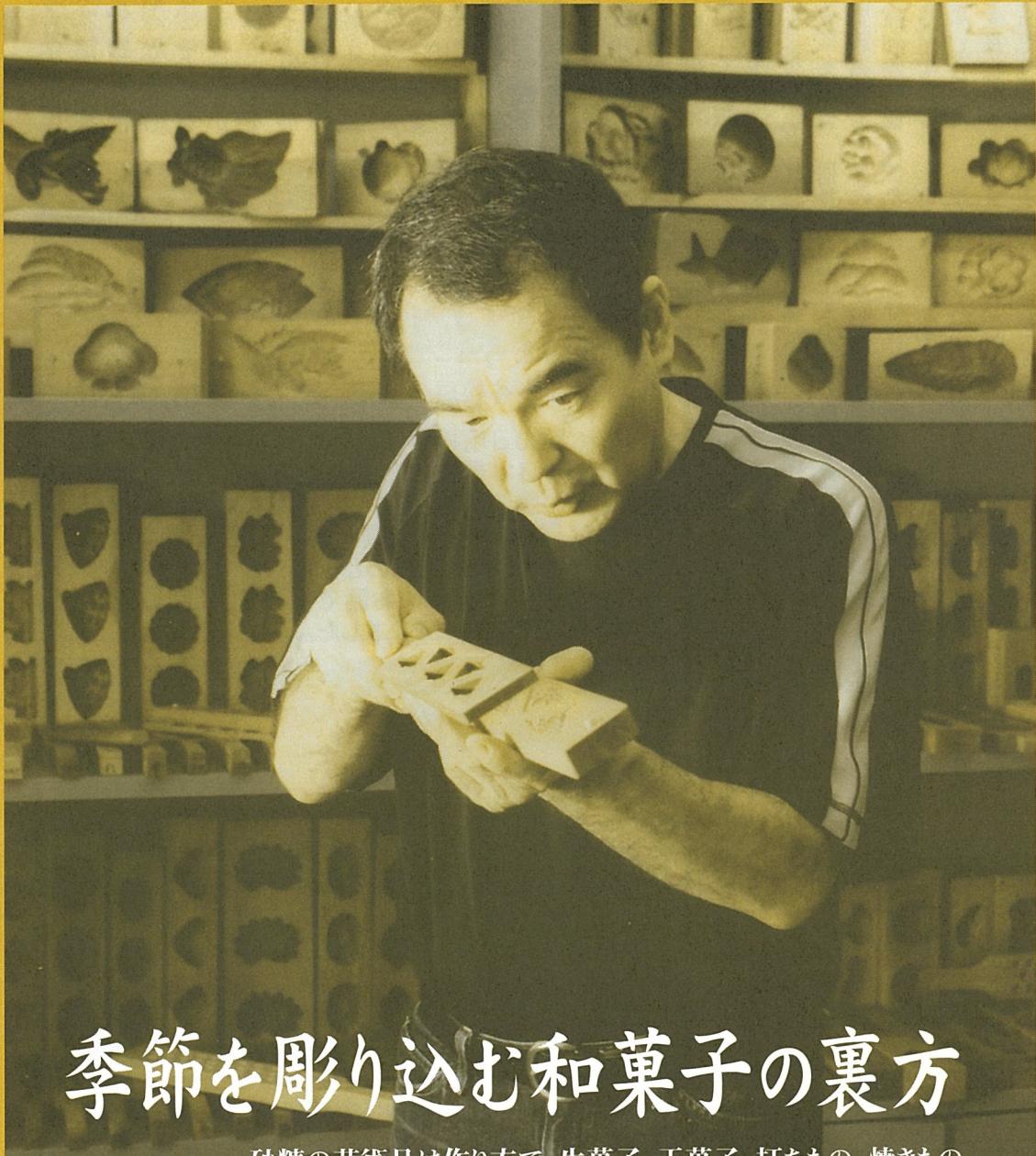
讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通

2002

秋

9月1日発行(季刊)



季節を彫り込む和菓子の裏方

砂糖の芸術品は作り方で、生菓子、干菓子、打ちもの、焼きもの、流しものと分類され、形は季節を先取って花なら桔梗、もう少しして、ほんのり紅葉。

甘くて美しい和菓子の世界に欠かせないサクラ材の木型。市原吉博さんは全国で数少ない木型職人(伝統工芸士)のなかでも異色の若手。茶道文化の一端を担うワザ師である。

茶の湯の文化講座

桃山時代の道具と現代

～名品を手にとって楽しむ鑑賞会～

戸田 博

特別寄稿

緑の保護と都市生活の共存をめざして／樹木医の仕事について

樹木医 川西玉夫

好評連載

美藻庵点描／Oh!茶Ga—！

九月から十一月までの茶華道・イベント情報

を掲載

僕らは道具商ですから、考古学の先生とか、歴史家の先生、そして茶道研究家の人達とちょっと違いまして、物を見る切り口が違うんですね。所謂、歴史から考察していくわけではなくて、そして窓場を見て考察するわけではなくて、昔かららずつと伝わってきた名品というものを見て、実際にお茶の中で使って、その時受ける印象を語つていく。その受ける印象から時代を逆算していく。そういうことをすることが、僕らは多いんです。ですから、非常に感覚的な話になってしまふわけなんです。

茶碗というものは、結局、唐物茶碗、高麗茶碗というものと、そして和物茶碗と大きくジャンルが分かれますが、今日はその中でも和物茶碗、日本で生まれた茶碗、日本で創造された茶碗というものにターゲットを絞つて少しだけお話しします。皆さん方がお茶を考えられる時には、千利休という存在がすごく大きいんですね、私もそうなんですけれども。桃山時代に利休が登場した時に、どういう茶碗が、彼の身の回りにあつたか。高麗茶碗はあつたんですねえ。そして唐物茶碗もあつたんですねえ。ところが、和物茶碗となりますと、利休の会記を見ても分かりますように、殆ど登場してないんです。かろうじて、ここにおいてます長次郎っていう茶碗があるんですけども、利休がその人に発注をして、自分が示唆をして、こういう茶碗を焼いてくれというふうに、細かく指導して生まれたのが、この長次郎茶碗です。長次郎茶碗登場っていうのは、物凄くセンセーショナルなものでしょねえ。当時はおそらくすぐには受け入れられなかつたですねえ。はつきり言いつ

まして。それと、利休という存在はどういう存在かと言いますと、珠光がいて、紹鷗がいて、利休がいるわけですけれど、信長及び秀吉あたりの権力と結びついた、そのある程度限られた線の中で行なわれてたお茶が、利休のお茶なんですねえ。ところで、一方そういうお茶とは別のことろにですねえ、地下人と僕らは呼びますけれども、要するにそういう権力の周辺ではないところで、お茶を楽しんでいた人達が存在してたわけです。そういう人達の中で、ある程度もてはやされてきたのが、こういう和物茶碗、瀬戸黒、志野、黄瀬戸、織部というようなどころなんです。ですから、少し心を柔軟にして見て頂いて、利休イコール全てだと思わず、利休のやつてたお茶っていうの

は実は非常に限定された地域で行なわれていたお茶なんだということなんですね。ご承知のように、利休の茶碗っていうのは、小さい茶碗です。この中に並べてみると、とても貧弱な小さな茶碗です。貧弱という言葉は適切ではないでけれども、寸法として貧弱なんです。ですから、この大きなものは、利休好みではないことは明らかなんです。つまり、利休とは違ったところの中で、その日本の茶道文化を代表するような、こういう名品たちが生まれてきておつたという側面を、ちょっと頭の中に置いといて頂いて、この話を進めていこうかなあとthoughtします。

その中で特に瀬戸黒という茶碗、一番向こうなんですが、そういう茶碗で豪快に飲まれていた人達の一群が存在してい

言つたように、こういうもので豪快にお茶を飲んでいた人達がいた。ご承知のように、志野、織部、黄瀬戸というものが、我々の茶道文化の中でものすごく評価を受け始めますのは、極端にいいますと戦後なんですね。明治くらいから、その兆しはありましたが、たとえば昔の古い入札を見ますと、志野、黄瀬戸は比較的に高かつたんですが、現在と比較すると、織部は物凄く安いです。大正時代に何万何千円というような茶碗がある一方、織部は何百円という値段だったわけです。ところが、織部の魅力が見直されましてね。そして時代性もあって、織部が物凄く評価を得始めるわけです。今では逆転現象って言いますか、織部の方が

中條文化振興財団助成事業 茶の湯の文化講座

主催
茶の湯をさらに楽しむ会

桃山時代の道具と現代

～名品を手にとって楽しむ鑑賞会～
講師／谷松屋一玄菴 戸田 博氏

去る6月30日晴松亭に於いて行なわれた講演会の要約です。日本最古のお茶道具商とも言える戸田一玄菴さんの講演は大きく二つの内容にわかれました。ひとつは「桃山時代の道具について」と、もうひとつは「現代における茶道文化のとらえ方について」ですが、双方とも大変興味深いお話ですので、二回に分けて掲載させて頂くことに致しました。



た事を示しているんですね。瀬戸黒においては、「小原木」という有名な茶碗がありますが、その茶碗は、表千家にあるんです。元々利休所持となつとるんですが、利休所持であつた理由、証拠ははつきりとは何もなくて、なぜそういうふうになつてたかというと、おそらく寸法だと思うわけです。実は、「小原木」というのは、大きい茶碗の瀬戸黒の中にあつて、極端に小さい茶碗なんです。まるで、長次郎のこの茶碗をほんの少し、背を高くしたぐらいの寸法なんですね。ですから、その特異性から、おそらく利休所持であつたろうという、そのストーリーが後々に生まれていつたんでしょうね。

凄く、まあ変な話、値段の話をしますと、高価なものになってしまったという、そういう経緯もあるくらいです。

それと、こっちに並べてますのは、志野なんです。この「椀が」向こうの方は、「楳の葉」と申しまして、阪急電鉄の創始者で小林逸翁という人がお持ちになつてたんすけれども、非常に豪快な茶碗。ちょっと後で持つていただきたいたら分かるんですけど、驚くほど大きくて、重くて、どしどしこして、こんな茶碗使い難いわねえっていうのが、大体一般の人の評価なんです。ところが、桃山には厳然として、こういう茶碗がまかり通つていたわけです。桃山の精神性というものが全部叩き込まれたような大きさ、そして寸法なんです。だから、規格外。

お茶が隆盛を極めようとする過渡期にはですねえ。寸法なんてことは、ある意味では無視されていたような時代もあつたということですね。昔の人は、体格的にには小さいわけですから、今我々が受けた大きさよりも、もつとその人達は大きいと感じたはずですよね。だから、まずそれが案外なされてないことは、五感に頼るということなんですね。自分の触覚であつたり、嗅覚、そして聴覚という、そういう見て触つてというそういうものは、自分の言葉で、自分の心で感じしていくということだと思うんですね。

案外なされてないことは、五感に頼るということなんですね。自分の触覚であつたり、嗅覚、そして聴覚という、そういう見て触つてというそういうもののが、分一人で一服のお茶を飲めるというのが、本来のお茶の醍醐味じゃないかなあと思

うんですけれども、今はどうも周りのことが気になって、案外自分が見えなくなつてしまつていうのが、今のお茶の現状かなと思うんですね。だから、桃山のこういう茶陶から習うべきことは、そういう既成概念を取つ払つて行く。まあ、規制緩和なんていわれてますけれども、そういうことだけじゃなくて、自分の心を縛り付けてきた、そのお茶に対するその既成概念を、一遍解き放してみると、うことなんですね。全てを容認してみる。全てを良しとする。そういう潔さを自分で育てていくことで、お茶の世界が、現代も、そして未来へも繋がつていく方法なんですね。

ですから今日、敢えて持つてきましたのは、こういう大きな茶碗。その横に志野茶碗の「通天」って言うんですけども、京都の東福寺の通天橋から見た紅葉の色の鮮やかさを思い浮かべて付けられた銘なんです。これが、志野の赤みとしては、志野の最高峰と言わ正在する茶碗ですが、一番この赤みがベストであろうと言われています。

その次に織部に移るんですけども、慶長に入つてきますと織部が生まれます。織部という人は、利休に実は一番近い人なんですね。ところが、利休の真似は一切しなかつた人です。利休の形も踏襲しませんでした。

実は、これが日本一の織部といわれる茶碗ですが。この茶碗を見られても分かりますけども、この長次郎の茶碗とのそりの差は、ものすごくあります。利休が作り出していくのが、これ。一番利休の思想を継いだと思われる織部が作った茶碗がこれ。すごく距離がありますよねえ。

すごく違いますよねえ。なぜかと言いますと、それは織部の利休に対する敬意だったと思います。利休が作ったそ

の型をまた、これまで型として捕らえて、自分が真似をしていくことは、あだやおろそかに出来なかつたんだと思うんですね。やっぱりそこに、その時代のオーディナリティっていう、独自性っていうんですか、簡単に人の真似をするんじやないよと、簡単に人のものをすぐに自分のものに取り入れていこうとするんではない、その独創性がすごくあつた時代なんです。これが二十年くらいしか続いていない、桃山という時代なんですねえ。志野や黄瀬戸や織部ってのが、江戸に

入つてなくなつていくでしょ。で、今度、萩茶碗が出てきたり、勿論、樂は代々続いていますし、仁清が出てきて、乾山がでてきて、ひと目見てその良さが解つてしまつたような茶碗が主役になる時代があるのです。桃山には、やっぱり桃山の雰囲気と言いますか、皆が求める美意識つてものが、はつきりあつたわけです。すごい時代性というものが反映されてまして。やがてそれも失われていきますから、今日、明治から以降、まあ幕末からとと言つてもいいですけれども、ほとんどの時代を背負うような焼き物つていうのは出て来てないんですよ。

九、内壁（二） 美藻庵点描



茶室の塗壁は薄いので、よく吟味して練り上げなければならない。下地は本来、切壁下地が正式とされており、下塗り、貫伏、中付、チリ回り、中塗りの順で行い、中塗りは早くて半年以上は放置してから上塗りを行う。

下地は普通の壁と異なり、乾燥の為に狂いが起らぬいため、竹を一間に三本ほど縦に入れ、その他は割竹で、下地繩は棕櫚、又は麻糸を使用する。（この下地を塗り残して作ったものを、下地窓という。）中塗りは、藁スサを五寸くらいに切り、練り込み、薄目にむらなく塗る。

上塗りは、水こねと言つて、ほとんど糊を加えない京土か、大阪土を用いる。また派手な土壁には紅壁と称し、じゅらく土に弁柄を混ぜて塗つたものもある。

特別寄稿 ● 緑の保護と都市生活の共存をめざして

樹木医制度は平成2年に始まり、毎年全国で80人が認定されており、現在のところ全国では850人あまり、香川県では7人となっています。

人となっています。樹木医の仕事といえば、傷んだり病気になつた樹木を治療して、樹勢を回復することと考えられています。たしかにそれも樹木医の大切な仕事の一つですが、私は、人間社会のなかで樹木が良好な生育ができるように環境を整えてやること、樹木の代弁者になれることも大切な仕事と思っています。

植物の生育には環境が大きく影響します。植物は葉や茎の緑の部分で空気中の二酸化炭素を吸収し、光を受けて養分をつくります「光合成」。一方根からは水分や養分を吸収し、葉で作られた養分とともに植物体を大きく育てます。自然界では、多くの植物が成長に必要な光と水を求めて生存競争を繰り広げています。そして、長い年月をかけて自分が生息できる場所の環境に適合した性質を得るようになりました。光を得るために樹高が高くなつたもの、樹下の少ない光で生育できようになつたもの、潮に耐える力を獲得し海岸で生育しているもの、他の植物が生育できない酷悪地で生育しているものなどです。

根も環境に適応していろんな形をとっています。熱帯林にみられる蘭など、樹木の幹に着生して空気中の水分を吸収しているものもあります。一般的には土に根を張っていますが、この土の状態が植物の生育にとつてたいへん重要です。根が



樹木医の仕事について 樹木医 川西玉夫

う要望が大きくなり、57年以降は剪定を中止していました。そうすると枝が信号を隠したり、低位置の枝が車と接触して折れたり、車が傷ついたりという問題が発生したため、この道路空間の中での樹木の理想形が検討されました。美しい樹形を保ちながら、交通の支障にならない

よう4、5m以下の枝を切除するため、剪定や撫育管理を始めています。自然樹形を壊さないような剪定作業を進めるため、その指導に私がかかわっている次第です。

樹が将来大きくなることを考えずに植栽した例がみられます。たとえば建物に接してケヤキがよく植えられています。当初は建物と調和して美しかったのですが、5年も経つと木が大きくなりすぎて、無残にも太枝から切られたため、形が乱れてしまうことがあります。商店街のアーケード下にケヤキが植えられている例もあります。すでにアーケードに当たりこれも毎年切り詰められています。ケヤキの魅力は雄大に伸びた枝にあります。大きくてできないところでは大木にならない性質のもの、また剪定しても樹形が保てる樹種を選ぶ必要があつた

ことになります。

◆十月講演会 文化講演会

「松平頼重と徳川光圀」

マスコミ四十三年、高松短期大学教授で、香川学、日本語表現などを担当している津森明さんの講演会。

私の仕事の一例として、高松市中央通りのクスノキ管理指導を紹介します。このクスノキは昭和25年から27年にかけて植栽され、当初は毎年庭木のように強い剪定が行われて小さくまとめられていました。しかし「木を大切にする、中央通りの景観には自然の樹形が好ましい」とい

う要望が大きくなり、57年以降は剪定を中止していました。そうすると枝が信号を隠したり、低位置の枝が車と接触して折れたり、車が傷ついたりという問題が発生したため、この道路空間の中での樹木の理想形が検討されました。美しい樹形を保ちながら、交通の支障にならないよう4、5m以下の枝を切除するため、剪定や撫育管理を始めています。自然樹形を壊さないような剪定作業を進めるため、その指導に私がかかわっている次第です。

樹が将来大きくなることを考えずに植栽した例がみられます。たとえば建物に接してケヤキがよく植えられています。当初は建物と調和して美しかったのですが、5年も経つと木が大きくなりすぎて、無残にも太枝から切られたため、形が乱れてしまうことがあります。商店街のアーケード下にケヤキが植えられている例もあります。すでにアーケードに当たりこれも毎年切り詰められています。ケヤキの魅力は雄大に伸びた枝にあります。大きくてできないところでは大木にならない性質のもの、また剪定しても樹形が保てる樹種を選ぶ必要があつた

ことになります。

記

とき	九月二十二日(日)	午後六時
処	美藻庵 晴松亭	当財団茶室
席主	筝	吉岡令子先生
	フルート	オカリナ
茶会	打楽器	榎本歌織先生
点心	高畠美智子先生	無類井宗英社中
定員	二席	各席 三十五名
会費	五千円	

財団行事予定

(九月～十二月上旬)

◆九月「筆と茶会」

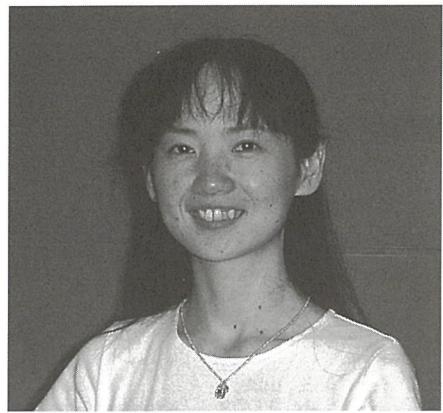
—仲秋の雅びの宴—

十五夜の月のしたで「日本の音」と茶会を楽しんでいただこうと準備をすゝめております。お誘い合せてご参会下さいますようご案内申し上げます。

とき	九月二十四日(木)	午後六時より
定員	三十名	
席料	五百円	

Oh! 茶Gai!

その⑬



今回は綾南町にお住まいの吉井偉子（よりこ）さん。お茶を始めたきっかけは学生時代、バイト先の先輩に憧れてだそうで「人当たりが良くて、繊細な心遣いができる。すごいなあ。」と思つていて、彼女がお茶を習つていると知つて「私もお茶を習えば先輩みたいになれるかな」と思つて始めたそうです。

「どうでした？」と聞いてみると「以前と違うと思うのは、何事にも真剣に取り組むようになつたことかな？お茶の動作には一見無駄なことがありますけど、実はじつは全てに理由がある。世の中にも無駄なことってないんじゃないかな？」と思つようになつたことだそうです。

今は着付け、お香、ペン字にお花と、お茶に関わることに興味がいっぱいで、習い事に大忙しだそうです。実は工学部卒の偉子さん。何事もとことん追求しないと気が済まない性格なのかも知れません。



喫茶居（十三）

「大井戸水神祭」

江戸時代、石清尾山系をはさんで二分していた香東川を現在のように西側に一本化して、香川町大野あたりから沼水化していた平野部での水のはんらんが治まり、水田の広がりは藩の財政を大いに潤しました。

ところが、今度は城下町で暮らす人々の生活水の確保に悩まされ、伏流水沿いの湧水を掘り井戸を中心とした上水道を完成させ、当時の木管や土管などの給水施設も確認されました。

瓦町二丁目にある大井戸はその名残りで、今も六月六・七の両日に水神祭を執り行ない、注連縄（しめなわ）を張り巡らせた町内に夜店がたち、俳句や川柳を添えた絵行灯（あんどん）が夕闇にぼんやり浮かびます。この幻想的な夏の夜まつり風景を楽しみませんかと、大井戸のご近所の茶道教室から誘われました。むし暑さをしのいだスダレがしつらった茶席で、涼やかなコハク羹と薄茶を一服いただきました。

す。常緑樹は冬期も活動しているので、葉が無くなると生理的に大きな負担になります。葉の密度を薄くするにとどめるべきです。

宅地造成された庭は地面がカチカチに固められています。ここに植え穴だけを掘つて木を植えても、周囲の土が固いので根が伸びることができず大きく育ちません。広い範囲で土壤改良して、根が伸びるスペースを作つてやる必要があります。また涼しい環境に適した木を高温乾燥が続く場所へ植えたため、枯らしているのも良く見かけます。このように植物の特性を無視した植栽が多く行われています。

人間社会の中で植物は必要不可欠な存在です。その植物が悠々と生育するためには、植物の特性を知り、その植物にあつた環境を人の手で整えてやることが重要です。その手法を説明指導することも樹木医の大きな仕事と思っています。

◆十一月月釜「炉開き」

立冬

紅葉狩り等々 十一月に入ると、秋の深まりを感じます。当財団では、表千家流の先生方で「炉開き」の釜をかけて下さることになりました。祝いの気持をこめた点心とともにお楽しみ下さいませ。茶の湯の経験や流派にこだわりなくお気軽にご参加いたゞければ幸いです。

記

とき 十一月三日（日）

処 美藻庵 晴松亭 当財団茶室
席主 濃茶席 表千家流 西谷 冬子先生

定員 薄茶席 表千家流 三好三千子先生
席料 全席七席 各席 十八名

茶席のご案内

第一席 九時

第二席 九時五十分

第三席 十時四十分

第四席 十一時三十分

第五席 十二時二十分

第六席 十三時十分

第七席 十四時

各席二時間半を予定

◆十二月月釜予告「クリスマス茶会」

忙中閑ありと十二月十五日（日）にクリスマス茶会をご準備トさっております。詳細は冬号でご案内いたします。

すべての行事は予約制（時間指定）となります。お申し込み、お問合せは、当財団事務局まで
高松市番町二丁目一十一
(087)826-3355

茶華道ガイド

安部流四国支部 ☎(0877)86-3442

11/17 安部流家元茶会(一般席 煎茶席 香煎席 点心席)
玉藻公園被雲閣 4500円 10:00~15:00
茶券の申込みは高橋まで

裏千家淡交会香川支部 ☎(0877)46-1899

11/3 坂出市文化の釜 坂出グランドホテル
500円 10:00~15:00
担当:早川宗恵、高宗代
11/3 丸亀芸術祭茶会 丸亀生涯学習センター
500円 10:00~15:00
担当:山田宗美
11/3 観音寺市文化祭茶会 観音寺守働く婦人の家
500円 10:00~15:00
担当:中村宗寿、秋山宗君、荒木宗広
11/4 多度津芸術展協賛茶会 多度津福祉センター
500円 10:00~15:00
担当:多度津分会

裏千家淡交会高松支部 ☎(087)865-7150

9/1 月金 席主:松野宗美 天神会館
9:00~16:00 600円
10/6 月金 席主:熊野宗翠 天神会館
9:00~16:00 600円
11/3 月金 席主:長尾宗美 天神会館
9:00~16:00 600円

裏千家淡交会青年部 ☎(087)843-1829

12/1 年末チャリティ一茶会 点心付・薄茶席
(NHK歳末助け合い募金に寄付をします)
天神会館 10:00~15:00 800円 当日券有

小原流高松支部 ☎(087)833-9274

10/27 野外いけばなパフォーマンス「五色台は秋いっぽい Part IV」香川県瀬戸内海歴史民俗資料館
無料(一般的の当日参加歓迎、参加料無料)
10:00~16:00

11/8~10 香川芸術フェスティバル2002
小原流いけばな展「交流と創造~祈りある風景~」
高松丸亀町レツツ 無料 10:00~18:00

表千家同門会香川県支部 ☎(087)874-0458

10/12 高松市市民文化祭「秋趣茶会といけばな展」
席主:美沢包子 玉藻公園被雲閣
500円 9:00~15:30

11/10 表千家四季茶会 席主:藤沢千種
本覚寺別院 500円 9:00~16:00

11/10 栗林公園月金 席主:表千家同門会香川県支部
掬月亭 710円(入園料別) 9:00~16:00

琴平月金茶道会 ☎(0877)75-4420

9/8 月金 席主:宮武宗隆(裏千家) 松尾寺
500円 9:00~16:00

10/10 金刀比羅宮例大祭奉賛茶会 琴平官休庵教授者
代表:竹井清子 町文化会館
200円 9:00~16:00

11/10 月金 席主:田川いせの(表千家) 松尾寺
500円 9:00~16:00

11/23 町文化祭 琴平表千家教授者 代表:篠原和子
アクトことひら 200円 10:00~15:00

12/7・8 裏千家琴平教授者 代表:田中宗武
歳末目かけ合いチャリティ茶会
総合センター 200円 9:00~16:00

嵯峨御流華道香川司所 ☎(087)822-1070

11/20~25 75周年嵯峨御流華道といけばな展
(前期) 11/20~22、(後期) 11/23~25
高松天満屋7階催し会場
500円 10:00~19:00

煎茶 松風清社香川司所 ☎(087)831-6412

10/13 高松市市民文化祭「秋趣茶会といけばな展」
玉藻公園被雲閣 500円 9:00~15:30

草月流香川県支部 ☎(0877)63-2420

10/6・7 勅使河原蒼風 生誕100周年記念 草月流
香川県支部展 玉藻公園被雲閣及び庭園
300円 9:00~17:00

玉藻公園管理事務所 ☎(087)851-1521

9/13~16 墓跡展と華展 被雲閣
9/15のみ茶会 横の間 500円 10:00~16:00

10/12・13 高松市市民文化祭「秋趣茶会といけばな展」
被雲閣 茶券500円、華券300円、共通券
800円(入園料含む) 9:00~15:30

10/19 吳服商組合茶会 被雲閣

10/26 高松屋島ライオンズクラブ秋の茶会 被雲閣

11/10 石州流琴松会茶会 被雲閣

11/24 石州流流祖片桐宗閑公第330年祭記念茶会 被雲閣

12/1 香川大学表千家流茶会 被雲閣

町立塩江美術館 ☎(087)893-1800

9/21 第6回八兵衛茶会(月見茶会) 500円 13:00~

武者小路千家香川官休会 ☎(087)851-2258

9/1 香川官休会月金 席主:藤本淳子
本覚寺 500円 9:00~15:00

9/8 栗林公園月金 席主:香川官休会
掬月亭 800円(入園料別) 9:00~15:30

10/6 香川官休会月金 席主:松原律子
本覚寺 500円 9:00~15:00

11/3 香川官休会月金 席主:西村純子
本覚寺 500円 9:00~15:00

12/1 香川官休会月金 席主:山下恵美
本覚寺 500円 9:00~15:00

武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 ☎(087)821-8777

11/23 宮翠会青年部設立茶会 中條文化振興財団
600円 9:00~16:00

(あいうえお順)

次の期間(12月1日から2月末日)の情報を11月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合もあります。

イベントガイド

善通寺市教育委員会 ☎(0877)63-6328

10/30 津軽三味線と落語・語り芸の世界
市民会館ホール 18:00~●

【第19回善通寺市民文化祭】

10/26 合同演奏会 市民会館ホール 14:00~■

10/27 芸能祭 市民会館ホール 12:00~★

11/3 狸土芸能大会・獅子舞大会 善通寺伽藍 11:00~■

11/3 善通寺空海まつり 善通寺伽藍 9:30~■

11/2~4 生花展 総合会館ロビー 9:00~■

11/2~4 文芸展 市民会館2階大会議室 9:00~■

11/2~4 小児生徒作品展 市民会館ロビー 9:00~■

11/2~4 シルバー人材センター作品展 市民会館集会室 9:00~■

11/9 吟詠大会 市民会館ホール 12:30~■

11/10 民謡(踊)大会 総合会館3階和室 13:00~★

10/30~11/3 美術展 善通寺市美術館 10:00~■

10/22~11/6 菊花展 総本山善通寺(誕生院) 9:00~■

11/13~17 西高造形展 善通寺市美術館 10:00~■

飯山町文化協会 ☎(0877)98-7961

9/2~12 書道展(主催:富士見書道教室)

飯山町役場庁舎分館 8:30~■

10/21~31 陶芸展(主催:陶友会) 飯山町役場庁舎分館 8:30~■

11/2~3 生涯学習フェスティバル(主催:町教育委員会・文化協会)

飯山総合運動公園 8:30~■

11/16~24 書道展(主催:竹乃子教室)

飯山町役場庁舎分館 8:30~■

12/1 凧作り講習会(主催:町教育委員会・凧愛好会)

飯山総合運動公園体育館 14:00~■

仲南町教育委員会 ☎(0877)77-2882

9/1~15 仲南町文化協会展【作品展示】

農村環境改善センター 日曜9:00~、月~土13:00~■

11/3 二宮飛行神社大祭 特産品センター【道の駅】9:30~■

11/3 獅子舞フェスティバル 町民文化ホール 13:00~■

11/16~17 第44回仲南町文化祭 中央公民館・中学校体育馆

11/16 13:00~、11/17 9:00~■

11/16 芸能フェスティバル【文化協会合同発表会】

町民文化ホール 18:00~■

総合会館アイレックス ☎(0877)86-6800

10/26 子供フェスティバル

11/17 總歌吹奏楽団定期演奏会

11/24 美川憲一コンサート

12/22 濱戸フィルコンサート

高瀬町文化協会 ☎(0875)73-3019

9/8・9 第7回高瀬町子ども芸術鑑賞会

劇団MOMO「花咲かじいさん」

9/8 麻地区農業構造改善センター 15:00~■

9/9 高瀬町農村環境改善センター 10:00~■

11/2 たかせ町民文化祭2002 河野實文化講演会

「21世紀を豊かに生きる」

高瀬町農村環境改善センター 13:00~■

11/3 たかせ町民文化祭2002

芸能発表・作品展示・フリーマーケットなど

高瀬町農村環境改善センター周辺 9:00~■

大野原町文化協会 ☎(0875)54-5702

11/2~4 第34回文化展 町文化協会所属クラブ及び

一般の作品展示・茶会他

大野原町スポーツセンター・

大野原町中央集会場 9:00~■

香川町教育委員会社会教育課 ☎(087)879-0231

<香川町総合体育館>

11/2・3 香川町文化祭 10:00~■

12/8 香川町スポーツ文化振興会H14年度事業

井上あづみファミリーコンサート 13:30~■

町立塩江美術館 ☎(087)893-1800

<企画展>

9/3~29 Photo Collage IN NEW YORK 9:00~■

10/1~14 北谷ケンジ写真展(仮称) 9:00~■

10/16~11/4 小比賀美遺作展 9:00~■

11/16~12/1 塩江町文化協会作品展 9:00~■

12/3~15 貴志勉作陶展&教室作品展 9:00~■

12/17~平15.1/13 西沢智子展(仮称) 9:00~■

町立塩江美術館 ☎(087)893-1800

<行事>

9/21 第6回八兵衛茶会

12/15 クリスマスコンサートIN塩江 14:00~■

三木町役場社会教育課 ☎(087)891-3314

10/26・27 第32回三木町文化祭 三木町文化交流プラザ 9:00~■

11/15 サンネットデリバリー・アーツ事業

出演:三遊亭あろー氏 ■

さぬき市文化振興財団 ☎(087)894-1000

<志度音楽ホール>

9/26 松竹新派特別公演

「ふるあめりかに袖はぬらさじ」 18:30~■

11/18 ゲヴァントハウス弦楽四重奏団演奏会 19:00~■

12/11 バイアール室内管弦楽団公演 19:00~■

とらまる座(大内人形劇場) ☎(0879)25-0400

9/14~16 第18回レクリエーション人形劇のカーニバル 10:30~■

9/21~23 エツコ・ワールド「ハロー!カングロー」 13:30~■

10/2~6 茶問屋ショーゴ「キツネ君、危機一髪」

10/2~4 10:30~、10/5~6 13:30~■

10/9~14 人形劇場かくれんぼ「白ひげ先生雲にのる」

10/9~11 10:30~、10/12~14 13:30~■

10/15~18 糸あやづり人形劇団のみむし「夢見るコッケちゃん」 10:30~■

10/19~20 譜州木偶劇「牛鬼退治」

10/19 13:30~、10/20 10:30~・13:30~■

10/23~27 糸あやづり人形劇団のみむし「花咲かじいさん」

10/23~25 10:30~、10/26~27 13:30~■

10/30~11/1・5 10:30~、11/2~4 13:30~■

11/8~10 10:30~、11/9~10 13:30~■

11/12~17 人形劇場たけのこ「ばけ袋」

11/12~15・17 10:30~、11/16~17 13:30~■

池田町文化協会 ☎(0879)75-0431

<池田町イマージュセンター>

10/26~27 第21回池田町文化発表会 10/26 13:00~、10/27 9:00~■

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。(記号表示は判明したもののみ)

上記予定は変更する場合もあります。

イベントガイド

香川県文化会館 ☎(087) 831-1806

<1・2・3階展示室>

9/5~16 第41回日本現代工芸美術展 9:00~●

9/20~23 香川県華道選抜秀作展 9:00~●

10/12~11/10 光の交響詩～緑川洋一の世界～ 9:00~●

<6階展示室>

9/7~29 館蔵品による茶道具名品展 9:00~●

10/5~11/10 館蔵品による東山魁夷展 9:00~●

11/23~平15.1/19 香川の彫刻たち～近代日本彫刻の青春期 9:00~●

香川県県民ホール ☎(087)823-3131

<グランドホール>

9/1 かがわジュニア・ニュー・フィルハーモニックオーケストラ ファーストコンサート 14:00~●

9/15 2002「かがわ第九」演奏会 14:00~●

10/4 六三四「MUSASHI」LIVE in 香川～チャリティコンサート～ 19:00~●

10/5 やしきたかじん Concert Tour'02 18:30~●

10/11 大正琴・感動の花束 四国大会 10:00~■

10/12 布袋寅泰コンサート 18:30~●

10/13 ミッフィーこどもミュージカル&オータムコンサート 13:00~●

10/19 ミラノ・スカラ座デビュー30周年 林康子ソプラノ・リサイタル 16:00~●

10/20 THE ALFEEコンサート 18:00~●

10/27 香川芸術フェスティバル2002年 洋舞主催公演 舞踊ファンタジー「くるみ割り人形」 13:00~●

11/2・3 宝塚歌劇雪組公演 11/2 14:00~18:00~、11/3 11:00~15:00~●

11/19 スウェーデン国立 エーテボリ交響楽団 18:30~●

12/12 ソフィア国立歌劇場 18:30~●

<アクトホール>

9/22・23 第28回二期会オペラ公演 喜歌劇 「ウイーン気質」全三幕 9/22 18:00~、9/23 14:00~●

9/28 土取利行・縄文鼓の世界～アイヌ・ソングとの饗宴～ 15:00~●

10/3瀬戸フィルハーモニー交響楽団第3回定期演奏会 18:30~●

10/6 コメディミュージカル「一二三」14:00~●

11/28 四国4県共同舞台芸術公演ネットワーク事業 しづくフレッシュコンサート in かがわ 18:30~●

<多目的大会議室「玉藻」北館5階>

9/8 土取利行講演会 「縄文の音～日本人の伏流感覚～」14:00~●

香川県歴史博物館(9/3~11は休館) ☎(087)822-0002

<企画展示室>

10/19~11/24 「久米栄左衛門展」 9:30~●

<部門展示室> (大人400円)

9/12~11/24 与田寺の至宝 宗教文化室 9:30~●

9/12~11/24 弥生時代の技術革新 産業と技術室 9:30~●

～9/15 「空からみた香川2」水とくらし室 9:30~●

～9/15 「松平家と寺社1～善通寺～」 松平家歴史資料室 9:30~●

9/18~12/8 「高松城下を掘る」 9:30~●

高松市教育委員会文化振興課 ☎(087)839-2636

9/26 デリバリーアーツ事業「オーケストラ演奏」

西春日保育所 18:00~■

【高松市市民文化祭アーツフェスタかまつ2002】

9/28~11/4 ウィンドーディスプレイ in 高松2002

丸亀町商店街・北部三町ドーム 11:00~■

10/18 玉藻城薪能 玉藻公園櫻の馬場

(雨天の場合 高松市民会館) 18:00~●

10/19 奇才の人・平資源内 中学生歌舞伎

「神靈矢口ノ渡し」上演とシンポジウム

香川県文化会館3階芸能ホール 13:00~●

10/14 大地からのメッセージ「映像から音楽へ」

ガイアの龍村監督作品のビデオ上映会&蔵王

の歌詩人熊谷金次による歌と語りコンサート

香川県民ホール大會議室「玉藻」13:00~●

11/4 「Sweet Way」ジャズコンサート

丸亀町商店街・北部三町ドーム 13:00~■

高松市美術館(休館日:月曜) ☎(087)823-1711

<2階展示室>

9/20~10/20 フェリシャン・ロップス展 9:30~●

11/1~12/8 アンジェ美術館展 9:30~●

<1階常設展示室>

8/25~10/21 第3期常設展 9:30~●

<1階エントランスホール>

9/7 ミュージアム・コンサート

「二胡と中国琵琶による悠久の調べ」18:30~●

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

<文芸講座>サンクリスタル高松 3階第1集会室

9/7 「上林曉生誕100周年と『兄の左手』」13:30~■

10/6 「三島由紀夫の病跡学～文学と精神医学

の間で～」 13:30~■

11/2 「壺井栄の文学」 13:30~■

12/7 「ひねる苦と楽」 13:30~■

高松市歴史資料館(休館日:月曜) ☎(087) 861-4520

<サンクリスタル高松1階ロビー>

10/1~12/15 サンクリスタル高松の10年後(仮称) 9:00~■

<4階特別展示室>

10/12~11/10 高松市歴史資料館開館10周年記念

第31回特別展 彦根の名宝展(仮称) 9:00~●

高松市立市民会館 ☎(087)839-2888

9/28 田川寿美コンサート2002秋 14:30~●

10/7 FM香川開局15周年記念

「川井郁子」バイオリンコンサート 19:00~●

10/23 SKOOP On Somebodyコンサート 18:30~●

10/31 葉加瀬太郎 アコースティックコンサート 18:30~●

11/11 大花劇団全国特別公演 14:00~・18:00~●

12/5 小林桂 "SOFTLY" TOUR2002 19:00~●

12/14 香川大学合唱団第46回定期演奏会 14:00~●

玉藻公園管理事務所 ☎(087) 851-1521

<桜の馬場>

10/18 高松市市民文化祭 玉藻城薪能 18:00~●

<被雲閣>

10/20 第14回水任流雜談会

10/27 高松市市民文化祭 お手玉遊び(入園料別) 10:00~■

11/3 高松市市民文化祭 高松市民文芸まつり

(俳句・短歌・川柳)

落語家・笑福亭松枝を招いての独演会と、各部会による文芸大会

10:00~●

オーリーフホール ☎(087)861-0467

9/15 ティーンズ・ミュージック・フェスティバル

10/13 高松市市民文化祭 劇団暖団 演劇公演

「絢爛とか爛漫とか」 14:00~・18:30~●

10/20 高松市市民文化祭 劇団冒險主義

演劇公演「リターン」 14:00~・18:00~●

10/23~24 シューピーリム・ダンス・カンパニー ダンス公演

セントラルホールウイング ☎(087) 833-0005

<セントラルギャラリー>

10/21~25、27~31 美術作品展 百十四旧友会 9:00~■

三越高松店 ☎(087)825-0828

<本館5階美術画廊>

9/3~9 現代名僧・高僧墨蹟展

9/10~16 開窓35周年萩焼 守繁栄徹・徹父子展

9/17~30 秋の大版画展

宮武画廊 ☎(087) 851-2354

9/2~8 岩崎郷太郎油彩展 9:00~■

9/9~15 第48回 うすみ会 & 第19回香川陶光会

合同展 9:00~■

9/16~22 第19回 講岐木楽会 建具 われ職人展 9:00~■

9/23~29 鈴木美智子のアートプレスフラワー展

PART II 9:00~■

9/30~10/6 第12回 新日本美術協会香川支部展 9:00~■

10/7~13 絹絵グループ「スケッチブック」

第4回作品展「心なごむ風景展」 9:00~■

10/14~20 松本和明・宮崎佐和子 漆芸展 9:00~■

10/21~27 第20回 香川風の会 写真展 9:00~■

10/28~11/3 第14回 拾語契会 写真展 9:00~■

11/4~10 石川彰造 鉛筆画展 9:00~■

11/11~17 第10回 marai 油絵作品展 9:00~■

11/18~24 KATAROのpin-upシリーズ展 9:00~■

11/25~12/1 小規模作業所あじさいの「生きる・楽しい

ナー展」 9:00~■

12/2~8 第39回 高松フォトクラブ写真展 9:00~■

12/9~15 新名宣昭 油絵個展 9:00~■

ヨンデンスラザ高松 ☎(087)851-3863

9/1 キャノンクラブ 高松支部 写真展 ■

9/10~15 NHK水墨画墨彩画展

「NHK文化教室による水墨画・墨彩画の展示」 ■

9/17~22 第2回美しい絵手紙展 「絵手紙約200点の展示」 ■

9/24~29 第30回譜岐彦工芸展

「お盆・御重等木彫り作品 約120点の展示」 ■

坂出市教育委員会社会教育課 ☎(0877)44-5026

11/10 2002さかいでまなとビアフェスティバル

市民広場・はなみずき広場・香風園・ふれ

9:30~■

あーとうらんど ギャラリー(月曜休廊) ☎(0877)24-0927

*絵画部門 (1階)

9/7~29 イン・ラ・ブジン版画展 10:00~■

10/5~27 とくだあきら展 新作版画十ドローイング 10:00~■

11/2~24 関 和正展 10:00~■

11/30~12/22 2002様々な邂逅展 10:00~■

*工芸部門 (2階)

9/2~10/2 用と美の茶道具展 (用の茶道具9/2~10/2、

美の茶道具9/21~29) 10:00~■

10/5~20 沖 康史 陶芸展 10:00~■

10/24~11/6 舟敷本染手織会作品展 10:00~■

10/31~11/3 特別企画展 (仮称) 10:00~■

11/28~12/27 2002アモール・プラザ展 10:00~■

丸亀市文化協会 ☎(0877)24-8822

11/2~3 市民芸能フェスタ丸亀'02

丸亀市生涯学習センター 10:00~■

丸亀市教育委員会文化課 ☎(0877)24-8822

10/5 丸亀文化祭「String Thing コンサート」

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館2F ミュージ

アムホール 19:00~■

10/6 第49回丸亀市芸術祭主催公演

「亀城の秋をうたう 箏・三絃・尺八演奏他」

丸亀市民会館大ホール 13:00~■

10/12 ばさらの寄せ IN 丸亀城 (狂言・雅楽・香道・

煎茶など) 丸亀城内芝生広場資料館 10:00~■

10/12~20 第49回丸亀市芸術祭主催展覧会

(日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真)

丸亀市生涯学習センター・丸亀市立資料館 9:00~■

11/2~4 第49回丸亀市芸術祭主催展覧会 (生花)

協賛展示 (染焼・さぬきぎ彫)

丸亀市生涯学習センター 9:00~■

11/3 第49回丸亀市芸術祭主催行事 (お茶の会)

丸亀市生涯学習センター 10:00~■

11/17 丸亀文化祭

「子どもの詩 表彰式&鹿島和夫“あのね”講演会」

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館2F ミュージ

アムホール 13:00~★

12/22 丸亀オーケストラ (仮称) 創立発表演奏会

丸亀市民会館大ホール

丸亀市立資料館(月曜休館) ☎(0877)22-5366

9/7 講演会「遍路文化模様」

講師: 東田大師堂庵主 喜代吉榮徳氏

丸亀市民会館1階展示室 13:30~■

11/2~12/8 開館30周年記念 資料館名品展

丸亀市立資料館 9:30~■

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877) 24-7755

7/28~9/3 オシャベリ@美術館 10:00~■

10/1~12/5 猪熊弦一郎展 ~地図でない地図~ 10:00~■

12/15~平15.3/9 速水史朗展 10:00~■

丸亀市民会館 ☎(0877) 23-4141

<大ホール>

9/8 丸亀市少年少女合唱団

~結成記念コンサート~ 14:00~●

9/16 松竹大歌舞伎 十代目坂東三津五郎襲名披露

1

9月より毎月第3火曜日には
喫茶室として皆様のご利用を
お待ちしております。

「月に1回でもいいから好きな時間に茶室に来てお茶が頂ける日が出来ないだろうか?」といったご要望を頂きました。財団の茶室「晴松亭・美藻庵」は平成9年4月以来公開された茶室として茶道文化の興隆を目指して、今年で6年目を迎えました。本格的な茶事のできる茶室ということで、財団で企画します月釜等は、濃茶席、薄茶席、点心席といった三席構成で実施されることが多く、大寄せの茶会とはいえ、そのほとんどが時間指定の予約制です。

温かいものは温かく、冷たいものは冷たいうちに召し上がって頂くといった茶懐石の心を守れば、やむを得ないことがあります。一方ではお茶の作法を知らないとなかなか参加しづらいといった声も聞こえます。間口を狭くしてしまうのは片手落ちということで、早速財団の茶の湯委員会で検討致しましたところ、とにかく実際にやってみようということで上記のような予定で、晴松亭を一日喫茶室として楽しんでいただく事と相なりました。

さて、この喫茶室は茶席ではありません。従って流派も関係ありません。できる限りお客様の要望に

晴松亭でお茶しませんか

9月17日(火) AM 10:00 ~ PM 4:00
10月15日(火)
11月19日(火)

予約は必要ありません。
喫茶料 1000円
(お菓子・薄茶含む)

そって運営していくことで、ただのんびりとすごしたい方、ミーティングや昼食会にご利用されたい方、建築に興味のある方やお茶に関して質問のある方等にも対応致します。茶室は立礼席と庭に面した和室の広間と小間があります。

個人でもグループでもご利用の仕方は自由です。なにかと忙しい毎日のほんのひとときでも、非日常的な茶室の空間で、ゆっくり過ごして頂ければと考えております。季節のお菓子と薄茶+αを差し上げるのを基本としております。この+αというものは本来の薄茶は何服でもご要望にお応えするという茶の基本姿勢によるもので、薄茶のお替りでも、コーヒーや紅茶等でもOKです。又薄茶の替わりに濃茶(1服)の体験も可能です。お盆点前のセットもできますので、ご自分で点てたり、ご要望でスタッフが目の前で点てさせて頂くことも致しますので、遠慮なくお申し込み下さい。

始めての試みですので、皆様のご意見も参考にしながら運営していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻等頂きましたら幸いです。

『あ・うつの数寄講座』が
一冊の本になりました。

平成十年度より開催されました同名の連続講座は財団の学術文化振興特別助成事業の一環として実施されました。茶の湯という日本独自の文化を切り口に日本の美と心について理解を深めるというテーマで行われた八回におよぶ講演会を編集し、まとめたものです。

本は現在、制作中で完成の予定は十月一日となります。完成した本は香川県内の図書館及び学校に寄贈の予定ですが、一般にも販売させて頂きますので、ご希望の方は財団事務局までお申し込み下さい。写真等講演会で使用したものを中心に入頂けましたら幸いです。

価格は送料、消費税を含む一六〇〇円です。

かって、その季節を人は「鬼が棲む」と、怖れた。採暖設備といつても、炭火火鉢か「あんか」。現在に較べようもない。衣類などもただ重いばかり。保温力などないに等しい。

でも、耐えた。耐えるしか術がなかった。まさしく、鬼が棲む季節であった。だが、いつの頃からか、暖冬が当たり前みたいに……異変といえなくらいだ。

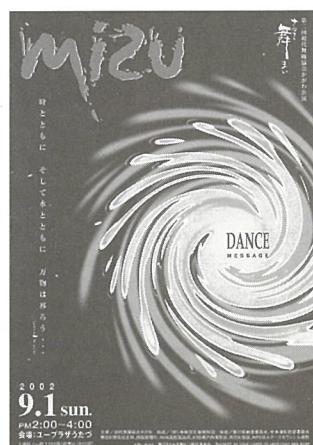
このところ、年中行事みたいになつた感の水不足。ことしもかと覚悟していたら、思わぬ台風の先触れか余波みたいに、雨にホットした。

地球が変わってきたのだろうか。人間のありようも、変わってきたといふ。

だが人間としての、大切なものだけは「鬼の棲む季節」がたとえ無くなつても、変わらないで欲しいと思つ。

【声・情報お寄せください】

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一二
(財)中條文化振興財団編集部
TEL(087)826-3355
FAX(087)826-2212



財団の助成事業9/1に開催

第一回現代舞踊協会かがわ公演

さぬき舞まい —MIZU—

■ 時
午後二時～四時
■ 於
ユープラザつたつ

編集後記

かって、その季節を人は「鬼が棲む」と、怖れた。

採暖設備といつても、炭火火鉢か「あんか」。現在に較べようもない。衣類などもただ重いばかり。保温力などないに等しい。

でも、耐えた。耐えるしか術がなかつた。まさしく、鬼が棲む季節であった。

だが、いつの頃からか、暖冬が当たり前みたいに……異変といえなくらいだ。

このところ、年中行事みたいになつた感の水不足。ことしもかと覚悟していたら、思わぬ台風の先触れか余波みたいに、雨にホットした。

地球が変わってきたのだろうか。人間のありようも、変わってきたといふ。

だが人間としての、大切なものだけは「鬼の棲む季節」がたとえ無くなつても、変わらないで欲しいと思つ。

【文化通心】第36号は平成14年12月1日発行です。